

第 22 回ももはな会

- 日時：2023 年 1 月 28 日（土）14：00～15：00
- 講演：末梢神経障害ってなあに？
- 講師：澁谷 和幹先生（千葉大学医学部附属病院 脳神経内科）

【Agenda】

- 末梢神経とは
- 抗がん剤と末梢神経障害
- 化学療法誘発性ニューロパチーの診断・評価
- 化学療法誘発性ニューロパチーの治療・対応

（講義の内容 一部抜粋）



末梢神経障害の症状

運動障害：筋力低下、筋萎縮

感覚障害：しびれ、痛み、感覚鈍麻、脱出

自律神経障害：排尿・排便障害、起立性低血圧、発汗障害、不整脈

いつから、どこに、
どのような症状がありますか？



化学療法誘発性ニューロパチー症状

	触覚、 温冷覚障害	振動、 関節覚障害	神経障害性 疼痛	運動障害	自律神経 障害	コースティング* (治療後の増悪)
シスプラチン	++	+++	++	-	+	+++
オキサリプラチン	++	+	+	-	-/+	++
パクリタキセル	++	+	+	++	-/+	-/+
ビンクリスチン	++	++	++	++	+++	+
ボルテゾミブ	+++	+++	+++	+	-/+	-

Cavaletti G, et al., Curr Treat Options Neurol 2011.

乳がん：主な化学療法

- ・ドキシソルビン
- ・エピルビン
- ・シクロホスファミド
- ・カペシタビン
- ・ドセタキセル ・パクリタキセル （タキサン系）
- ・カルボプラチン （プラチナ系）

抗がん剤の種類により、
末梢神経障害の種類や症状が
出る場所など、異なります。



末梢神経障害のリスク因子としては糖尿病、
アルコール依存等があります。
検査にて評価し、必要に応じて治療します

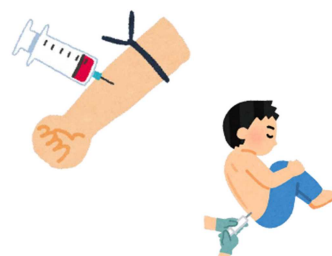
化学療法誘発性ニューロパチー リスク因子

- ・ 糖尿病
- ・ アルコール依存
- ・ 非アルコール性肝障害
- ・ 低栄養

Smith EM, et al., Oncol Nurs Forum 2008.
Stubblefield MD, et al., Cancer 2012.

化学療法誘発性ニューロパチー：検査

- ・ 採血
- ・ 脳脊髄液
- ・ 筋電図
- ・ 神経伝導検査



化学療法誘発性ニューロパチー評価 Grading (CTCAE v4.0)

① 末梢性感覚神経障害の Grading

Grade 1	症状がない；深部腱反射の低下または知覚異常
Grade 2	中等度の症状がある；身の回り以外の日常生活動作の制限
Grade 3	高度の症状がある；身の回りの日常生活動作の制限
Grade 4	生命を脅かす；緊急処置を要する

(有害事象共通用語規準 v4.0 日本語訳 JCOG 版より引用)

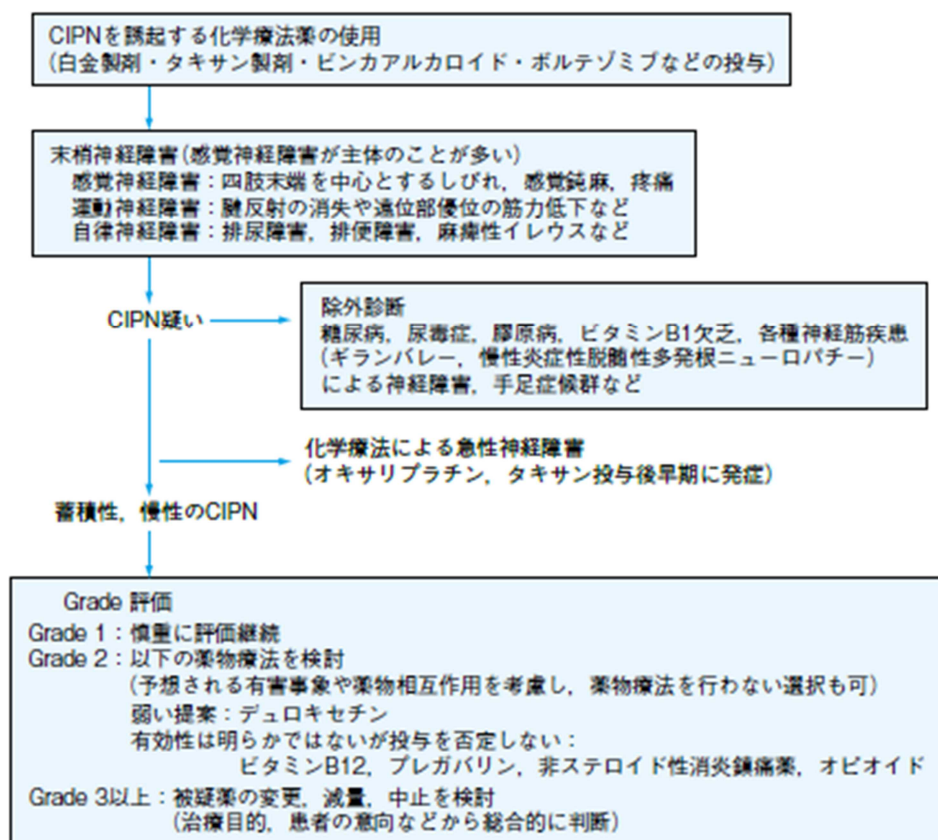
② 末梢性運動神経障害の Grading

Grade 1	症状がない；臨床所見または検査所見のみ；治療を要さない
Grade 2	中等度の症状がある；身の回り以外の日常生活動作の制限
Grade 3	高度の症状がある；身の回りの日常生活動作の制限；補助具を要する
Grade 4	生命を脅かす；緊急処置を要する

(有害事象共通用語規準 v4.0 日本語訳 JCOG 版より引用)

がん薬物療法に伴う末梢神経障害
マネジメントの手引き 2017年版

化学療法誘発性ニューロパシー：治療



がん薬物療法に伴う
末梢神経障害マネジメント
の手引き 2017年版

痛みや痺れの強い症状が長く続いてしまうと症状の改善が難しくなります。
症状は早めに対処することが大切です。症状緩和するための薬剤がありますので、
主治医にご相談下さい。
現時点では、神経早期回復治療はありません。将来的には IPS 細胞などの再生医療
が期待されています。



化学療法誘発性ニューロパチー：生活

- ❁ 温度が変わることによって痛みや痺れが強くなる場合があります。
寒い時期は靴下をはくなど温度変化を少なくするように工夫をしましょう。
- ❁ 運動神経が障害されている場合は、転びやすかったり階段でつまづきやすかったりします。杖を使用したり、階段では手すりを使用しましょう。痺れが強い時は、ボタンなどが留めづらくなります。ボタンの代わりにファスナーを利用する、自助具を利用するなど工夫をしましょう。
- ❁ 感覚神経が障害されている場合は、温度が感じづらくなっています。湯たんぽを使用する時などは低温やけどに注意しましょう。
- ❁ バランスの良い食事を取り、アルコールを控えましょう。ビタミンはサプリメントでは無く、食事から摂取出来るよう心がけましょう
- ❁ リハビリは有効です。体を動かし電気信号を伝えてあげることが大切です。積極的に体を動かしましょう。

国内の全がん罹患者予測数は 100 万人といわれております。
そのうち抗がん剤使用率は 30%とされ、化学療法誘発性ニューロパチー
発症者数は 95,000 人と推定されており、患者数は多いです。
痺れ、痛みはがまんせず、主治医に相談しましょう。
早めに治療をおこない、バランスの良い食事・適度な運動を心がけ、
病気をしって適切な生活を送りましょう。



2023/2/22
ももはな会事務局